

第1回 江府町学校運営協議会【概要記録】

■期 日：令和2年5月20日（水）

■時 間：19：30～

■場 所：防災・情報センター 2階 研修室

<会議出席者>

【委員】井上廉女委員、小椋委員、井上裕吉委員、宮本委員、高津委員、船越委員、
藤原委員、中川委員、長岡委員、山本委員、瀬尾委員、竹内委員
欠席：遠藤委員

【事務局】富田教育長、加藤課長、景山課長、森田教頭、山本教頭

【傍聴者】なし

1 開 会

教育長あいさつ

- 子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化、多様化しており、学校と地域の連携や協働の重要性が指摘されている。
- 子どもたちの豊かな成長のためには、社会総がかりによる教育の実現が不可欠となっている。
- 平成29年に法律が一部改正となり、全ての公立学校において学校運営協議会を設置することが努力義務化となった。
- コミュニティー・スクールは学校と保護者、地域のみなさんが共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させる事で、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、地域と共にある学校作りを進める法律に基づいた仕組み。
- 本町においても、導入に向けて平成29年度から推進委員会を設置し、協議を重ねていただき、本町に合ったコミュニティー・スクールの姿形を研究してきたところ。
- 本町においても令和2年度から学校運営協議会を設置し、地域と共にある学校作りをより一層推進するとともに、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る、学校を核とした地域作りにも積極的に取り組んでいきたい。

2 委員紹介 <進行：事務局>

	氏 名	所 属
1	井上 廉女	地域代表（江尾地区）
2	小椋 和美	地域代表（米沢地区）
3	井上 裕吉	地域代表（明倫地区）
4	宮本 正啓	地域代表（俣野地区）
5	高津 亮二	江府町青年団
6	遠藤 真吾	江府町観光協会

7	船越 寛明	青少年育成江府町民会議
8	藤原 眞輝	地域学校協働活動推進員
9	中川 敦紀	保護者代表（保育園）
10	長岡 達也	保護者代表（小学校）
11	山本 美穂	保護者代表（中学校）
12	瀬尾 美佐子	江府小学校 校長
13	竹内 貴美	江府中学校 校長

3 説 明<事務局>

・江府町学校運営協議会について

【学校運営協議会の組織及び機能】

学校運営に地域も主体的に関われる仕組みが学校運営協議会。江府町の学校運営協議会は、小・中学校合同の1つの協議会。旧4小学校区の地域代表、まちづくり・子育て・青少年育成等に関する各種団体代表、地域学校協働本部代表、保護者代表、学校代表のメンバーでスタート。学校評価も学校運営協議会で行う。

【めざす子ども像】

「ふるさとに夢を描き、まち・ひと・みらいとつながる江府っ子」

<サブテーマ> ○思いやりと優しさを持ち、明るい笑顔で人とかかわれる子

○たくましくしなやかな心と体を持ち、のびのびと自己を表現できる子

○ふるさとの自然と文化を愛し、ふるさとを大切にする子

【主な3つの機能】

「校長が作成する学校運営の基本方針を承認する」

「学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる」

「教職員の任用に関して、教育委員会規定に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる」

【部会について】

○学校の学習行事を支援する「学習・行事支援部会」

○生活習慣・家庭教育向上の取り組みをする「健全育成部会」

○地域の活性化につながる取り組みをする「地域活性化部会」

【コミュニティ・スクールの魅力】

<子どもたちにとっての魅力>

○地域の方が関わられることによる学びや体験の充実

○活動を通じた自己肯定感や思いやりの気持ちの高まり

○地域の担い手としての自覚

○地域の見守りによる安心安全な生活

<保護者にとっての魅力>

○学校や地域に対する理解の深まり

○家庭教育と健全育成などの取り組みをする事での相乗効果

○地域で見守られているという安心感

○地域の方と人間関係の構築

<地域にとっての魅力>

○地域の方自身の生きがいや自己有用感の涵養

○地域のネットワークの形成

○防犯・防災の構築

<教職員にとっての魅力>

○地域人材の活用による学校での活動の充実

○子どもたちと向き合う時間の確保

【協議会のスケジュール】

3月に学校運営の基本方針を承認いただき、それを基に4月から学校を運営していくのがコミュニティー・スクールの流れ。今回は初年度なので、今回承認をいただく。2月に学校評価を想定。活動の内容や協議の内容にもよるが、ある程度の回数は必要。他町も参考に6回とした。

4 協 議

(1) 委員選出について<進行：事務局>

※互選により、(会長)宮本正啓委員、(副会長)井上裕吉委員を選出

(2) 学校経営方針について<進行：宮本会長>

※両校長より、学校経営方針について説明

小 校 長 ○今年は、10年に1回の学習指導要領の改訂があり、今年度から本格実施。5・6年生は外国語科が週2時間、国語や算数と同じように評価をしていく。3・4年生は週1回外国語活動を行う。プログラミング教育も全面実施。

○一番大きく変わるのが、アクティブラーニングという考え方。進んで課題に取り組み、みんなで作り上げていく授業に変わる。自ら学ぶ、対話的に学ぶ、思考を深める、学びを人生や社会に活かす、課題に向かう力、人間力、そういうものを養う考え。

○江府小は、基礎学力は平均的だと考える。向かう姿勢、話を聞く、ルールを守るなども出来ている。残念な事は、自分の思いを表現するという事。そこには課題がある。ICTなどを使って自分が表現できる子どもを目指していきたい。

○有効な素材を3つの側面から。「環境面」は、自然が豊かで、地域も家庭も協力的、伝統行事も頑張っているという事。「行動面」は、子どもが明るくて素直、歌も歌えるし話も聞ける。掃除も一生懸命。「行事」では、地域学習や土曜学習や遠足なども協力を得て体験をさせてもらっている。コミュニティー・スクールが発足したので、これをベースに有効に活用していこうという気持ちでいる。

○校訓は「たくましい心と体 自立 敬愛 鍛錬」。これを江府中につなげていく。保育園の自分で選んで自分で決めて遊ぶという自立に向かう流れを汲んでやっていこうと思う。

○学校教育目標は「ふるさとを誇りに思い、自分からみんなと力いっぱい学ぶ子の育成」

○知徳体でめざす子ども像を設定している。「自ら学ぶ、支え合う、心と体を鍛える」

○めざす学校像は、「良い伝統と校風を自分たちの手で創り上げる校風」「潤いのある、安心・安全な学校」「地域に愛される学校」。ベースは江府町の町民憲章から取った。

○重点目標について

① 新学習指導要領の適正な実施【知】

新学習指導要領の知の部分は、先ほど話した通り。特に ICT 活用。ICT 支援員などの人材も活用しながら進めている。コミュニティー・スクールを活用した地域連携型の学びの設定。それを価値づけていく事が大事だと職員とも話をしている。

② 自分の気持ちや考え表現できる子どもの育成【徳】

iPad や電子黒板等を使って、考えを発表する場を作る。仲間づくりなどの視点でよいところを見つけ肯定的にほめる、声をかける。家庭とも絶えず学級通信などで連携をとる。そういうことをしながら徳の部分を鍛えていく。

③たくましい体づくり【体】

江府小は投力、握力、柔軟力などが高い。特に柔軟性は非常に評価されている。惜しいのが 50m 走。今年はそこを頑張っていこうと思っている。マラソン記録会、ロングマラソンも引き続き頑張っていく。「ブナモリ」という体づくりも引き続き取り入れる。

③ コロナ対策。

鳥取型「新しい生活様式」とあるが、これが当たり前の事としてできる、一人一人が意識を持っているという事が大事だと思う。子どもなりに考え、意識を高めていくという事はとても大切。

⑤物事を整理整頓しシンプルに効率的に

物事をシンプルにする事はとても大事。本当に必要かどうか考えて整理整頓をしようという話をしているところ。

○今年の子どもの数は 83 人。教職員は 23 人体制を整えていただいた。

○研究計画は、今年は ICT を徹底していこうという事で、これを使った授業を考えている。

会 長 続いて中学校。

中 校 長 ○江府中学校の使命は「3, 000 人の楽しい町」江府町の未来ある子どもの育成。子どもを育てる事で地域も活性化していく、そういった学校を作っていきたい。

○校訓は「しなやかな心と体」。雪の重みにも折れない、しなやかな竹のように、困難にぶつかっても負けない強靱な心と、健康で何事にも挑戦できるたくましい体をつくる、そういう意味が込められている。

○学校教育目標は「やさしさとたくましさを持ち、未来を切り拓く力を身につけた生徒の育成」。江府町の子どもたちは本当にみんな優しい。とても素直。でも、もう少したくましさを持ってほしいと思う。知らない人の中でもしっかりと自分の事を言う事ができる、友達と関われる、そういうたくましさを持ってほしいと思う。

○目指す生徒像は、「①心のこもった挨拶や、丁寧な掃除のできる生徒」「②感謝の心を持ち、人を大切にできる生徒」「③自分の言葉で、自分の想いを伝えることができる生徒」「④夢の実現に向けて挑戦し、努力できる生徒」「⑤ふるさとを愛し、ふるさとに貢献できる生徒」。

○3 年前からアントレプレナーシップスクールに取り組み、中学生議会も去年で 5 年目になった。これまで様々な提言を町の方に提案させてもらっている。活動を通して町の事を知って、もっと良くなってほしいという想いを育む事ができている。

○めざす教職員像は、やはり学び続ける教師であってほしい。生徒一人ひとりの可能性を信じて、最後まで粘り強く指導する教職員であってほしい。江府町の良さを先生方の言葉生徒に伝えてほしいと思う。自分の強みを活かし、和を大切にしたい教職員集団を作ってい

きたい。

○学校経営基本方針は「①生徒一人一人の良さを認め、生き抜く力を育み、自他の尊厳を大切に育てる」「②保護者や地域に信頼され、応援される学校づくりを推進する。(コミュニティスクール)」「③2年後の義務教育学校設置に向けて、小学校との連携を推進する」「④職員の意識改革と業務改善を行い、時間外勤務の削減に努める」

○キーワードは「生徒に生き抜く力をつける!」「そして職員は心をついに、活気あふれるチーム江府中!」

○本年度の重点目標は「①確かな学力と、学習習慣への定着を図る」「②安心安全な学校生活と、コミュニケーション能力の育成」「③ふるさとを愛し、未来を担う人材を育成する」「④働き方改革の推進」「⑤その他(初任者指導、新型コロナウイルス感染対策)」。

○ゲームとかメディアに接する時間が長い事を心配している。毎年講師を迎えて、生徒や保護者の方に勉強してもらっているが今年度もやりたいと考えている。家庭学習強化月間は本年度も5月・10月・2月に行う予定。メディアを何時間使ったかではなく、鳥取県PTA協議会のメディア21運動を受けて、21時までにメディアをやめることができたかできなかったかというところを生徒が意識して取り組むようにした。ICT機器の活用では、全職員で生徒が家庭でも使えるように教えていきたいと思っている。オンライン授業の研修会も実施した。

○本年度も人権教育参観日を実施し、6年ぶりに再会する地区学習会も勉強していきたい。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーそして町福祉課との連携を図りながら、子どもの心の不安がないように、また家庭での事について相談しながら子どもたちが安心して学校生活を送れるようにしていきたい。安心安全な学校生活の中でコミュニティー・スクールを活用していきたい。地域の力を学校にという点で、今までの読書ボランティアとか、校舎を磨く会で地域の方に学校に来ていただいている。そういった活動を今後も取り組んでいきたい。

○アントレプレナーシップ・スクールは3年目。今年度どのような形で行うかは検討中。江府町への提言、中学生議会は今年度も行っていきたい。2年後の義務教育学校設置に向けて保小中が連携し、ふるさと教育を進めていきたい。

○新型コロナウイルス感染拡大防止対策を全職員で取り組む。中学校も各行事が2学期以降に変更になっている。部活動も、県の総体が中止になった事により目標を見失っている子どももいる。吹奏楽コンクールも中止になった。様々な活動が中止という事で子どもたちはいろいろな事を我慢し、つらい気持ちでいると思う。何か他の活動を通してでも目標を見つけて頑張れるようにしていきたい。吹奏楽部は最後の形として8月くらいに演奏会でも出来たらと考えているところ。

○本年度、江府中学校は生徒数40名。教職員は25人。25人で江府中学校の生徒40人を支えて指導していきたい。

- 会 長 小学校、中学校それぞれ説明をいただいた。何か聞きたい事があれば聞いていただけたら。
- 副 会 長 中学校の説明で、地区学習を6年ぶりに再会という事だが、これはどんな事か。
- 中 校 長 地区進出学習会という事。地区の生徒が人権について勉強したり知識を身につけたりする事でこれからの困難な時代においてもそういった負けない力をつけていく、そういった学習をする事。今までは中学校に地区生徒がいなかったので学習会をしていなかったが、今年1年生に入学してきたので再開する事になった。

- 小 校 長 去年までは中学校の先生にも手伝っていただきながら小学校で学習会を実施していた。児童一人が中学校に進学したので、今年は小学校・中学校ともに実施。少ない人数なので共同で実施を予定。内容はそれぞれの学校で考えるが、枠組みは一緒な時間にして、一緒にできる活動も検討する。内容は学力保障がメイン。ほかには仲間づくり。地域学習についても学び、地域がどのようになっているのか、どのように頑張っているのかを調べ、解放文化祭などで発表している。
- 中 校 長 週1回、年間30回程度を予定。6月上旬に開講式をして、それからスタート。
- 会 長 他に聞きたい事があれば。
- 委 員 両校とも共通して、相手に自分の気持ちを伝える、話ができるようにするとかいう課題があった。(課題解決のために)何が必要なのか、何があればそれができるのかという事を考えることが大切だと感じた。
- 会 長 第2回、第3回という中でそのあたりが勉強していけたらと思う。
学校経営方針の承認は本来なら3月末ということだが、それぞれの学校で方針を作られたという事なので、承認というよりも了解していただくという事で次に進めさせていただけたらと思うが、よろしいか。
- 全 員 はい。
- 会 長 ではそのようにさせていただいて、次に進めさせていただく。

(3) 部会について

事 務 局 ※部会について説明

【学習・行事支援部会】

読み聞かせなど、学校の子どもたちにボランティアとして支援する活動を検討する部会。学校が行事、学習を進めるにあたって、地域がどのように支援をすればいいのかということ考えていく。

【健全育成部会】

メディアとの付き合い方や家庭学習、生活習慣などについての取組を考えていく部会。あいさつ運動など、家庭教育等につながる活動としてどんな事ができるかを考えていく。

【地域活性化部会】

子どもがどのように関われば、地域の活性化につながるかを検討する部会。地域での祭りに子どもたちがボランティア参加したりラジオ体操を地域の人と一緒にしたりといった事は、この部会の活動につながる。

めざす子ども像に近づくために地域、保護者、学校はどのように子どもたちに関わっていくといいのかという事を考えていただくための部会ととらえている。「自己を表現する力が弱い」「たくましがほしい」など、児童生徒が持つ課題を克服していくために地域と学校が一緒になって何ができるのかを考えたい。

- 会 長 学習・行事支援部会では学校の行事に対して地域がどのように支援できるかという説明があった。健全育成部会では家庭での支援、あいさつ運動とか、地域で子どもさんが健全に過ごせるものと考えたらどうだろうかとかという事。地域活性化部会では子どもさんが地域の行事に関わる事で地域のみなさんもいきいきと元気になるのではないかと。そういったものはどういうものがあるだろうというようなところ。逆に地域の高齢者と関わる事によって子どもさんも元気をもらい、高齢者の気持ち、あるいは高齢者は子どもさんの気持

ちを再認識すると。そういったようなお互いが良いメリットを結び付ける事ができるんじゃないだろうかというような説明だった。

各部会の所属については、全体が把握できていない中で決めるのは難しいと思う。希望があれば事務局に言ってもらい、その意見を事務局に反映してもらい、希望のない方については事務局の方で調整をしていただいて、案を作ってもらったらと思うがどうか。

委員 それでよい。自分は、家での生活習慣とかタブレット端末の利用時間とか気になっているので、健全育成部会の方でそういう事を勉強したいと思う。

会長 自分のやりたいと思う部会に入っていて力を発揮していただくというのはすばらしい事。事務局でうまく所属の原案を作っただけだったらと思う。それでよろしいか。

委員 はい。

会長 部の所属に希望があれば、先ほどの委員さんのように言っていただけたらありがたい。

委員 事務局の方は委員のみなさんがどういう所属か、どのような事をやってこられたとか一番よくご存じだと思うので、所属をあてはめやすいと思う。自分は事務局に一任する。

会長 事務局で考えさせていただくという事でご了解いただけるか。

委員 はい。

5 その他

○第2回委員会の開催日について

※協議の結果、7月に第2回を実施に決定

<次回の運営委員会の内容>

○ 部会の所属の決定

○ 部会での協議及び意見交流

※部会の活動については、学校からも提案する。

○ 次回は19時開会。

6 閉会

会長あいさつ

教育長あいさつ